

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	4
サポートクラス	メイジ	Lv.1:	メイジ	性別	女性
称号クラス				年齢	18
種族	ヒューリン			境遇	師匠
出自 (効果)	魔術師			目標	好奇心

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	9	9	8	19	11	11	6
ボーナス	3	3	2	6	3	3	2
クラス修正	0	0	0	2	2	2	0
他修正							
能力値	3	3	2	8	5	5	2

HP	41
MP	58
フェイト	6

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	マジックスタッフ	至近	-1	2	0	0	0	0	0
左手									
頭部	メイジハット					2			
胴部	メイジローブ					3			
補助	虹色の指輪						1		-1
装身具	グリモア								
能力値			3	0	2	0	5	7	8
スキル									
その他									
総計(右)				2	2				
総計(左)						2	5	6	7
総計(両)									m
ダイス数				2 d	2 d	2 d			

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	5			5	+ 2 d
トラップ解除	3			3	+ 2 d
危険感知	5			5	+ 2 d
エネミー識別	8			8	+ 3 d
アイテム鑑定	8			8	+ 2 d
魔術判定	8			8	+ 3 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
ポーションホルダー	
MPポーション	
MPポーション	
MPポーション	
枕	

現在重量: 2
 最大重量: 9
 所持金: 3905
 預金・借金:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ハーフブラッド	★	-	パッシヴ	-	-	-		
効果: タイミングがメイキングのヒューリン以外の種族スキル一つを修得。ただし幸運基本値-3								
マジシャンズマイト	2	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果: 魔法攻撃のダメージに+[SLd]する。								
マジックセンス	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 知力基本値+3								
ファイアロード	5	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 火魔法ダメージ+[SL*4]								
ファイアボルト	1	6	メジャー	20m	単体	魔術		
効果: 火魔法攻撃[2D+10]								
マジックフォージ	2	3	ダメージ直前	-	自身	自動	シーン1	
効果: ダメージ+[SL*2D]								
マジックブラスト	2	3	ムーブ	-	自身	自動		
効果: 分類: 魔術の対象を範囲(SL*2体)にする								
リゼントメント	1	-	効果参照	-	自身	自動	シナリオ1	
効果: 魔法攻撃のダメージ+[CL*10] シナリオ1回								
コンセントレイション	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 魔術判定+1D								
モンスターロア	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: エネミー識別の判定に+1D								
マジックノウリッジ	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 【知力】判定+1D								
レストタイム	1	-	効果参照	-	自身	自動	シナリオ1	
効果: シーン終了時に使用 HPとMP+[2d+CL]								
マジックスピナー I	1	-	インテリジェント	-	自身	自動	シナリオ1	
効果: 《マジックフォージ》の使用回数を1増加								
効果:								

「何か用ですかー？」「えー…魔術の話じゃないんですか…」「今、『魔術』と言いましたね…!？」

ヒューリンを父に、エルダナーンを母を持つハーフの女の子。
 身なりは恥ずかしくない程度にはしているが、全体的にだらしない性格。
 めんどくさがりで、身の回りの大抵の事を精霊魔術で片付けている。
 いわゆる「魔術バカ」で、魔術をこよなく愛しており魔術の成績"だけ"は学年上位常連。
 反面、魔術以外のものについては興味がほとんどなく、いつも成績はギリギリ。
 教師曰く「魔術以外ももう少しと真面目にやってくれたら飛び級出来ただろうに」とのこと。
 なお飛び級していないのは計算づくであり、本人曰く
 「あれだけの魔術書がある場所に7年も入り浸れるんですよ？その期間を短くしてしまうなんてあまりにもったいないじゃないですか!」
 とのこと。

容姿も端麗で魔術以外ではドジな面が目立つため、学院には密かなファンが多い。
 ほぼ毎日図書館に入り浸っており、出入りする人たちに知らない人はいないレベルの有名な。
 寮の部屋は魔術関連の本でタワーが数本立っている。
 借本を管理するリストは常に限界まで埋まっており、6年以上の時をかけて読破した魔術書や魔導書は1000冊をゆうに超えている。
 そこに収められた魔術の全てを習得しているわけではないが、知ることには意義を見出しているためあまり気にしていない。
 シオリとはかなり交流が深くよく話もするが、話が絶妙に噛み合わないことが多い。
 傍から聞いていると首を傾げたくなることは必至だ。

そんな彼女が魔術書や魔導書に収められているような魔術を知るだけでは当然満足するはずもなく……
 彼女が冒険者を志すのは、魔術書や魔導書に収められていない魔術を知るためである。